

食べ物様には仏が御座る（居られる）、拝んで食べなされや

【宇野正一先生の祖父（明治生れ）・米粒の中の仏様探し】

◎『いただきます』と食事前に合掌するのは、『尊い命を頂きます』の意味です。『頂き』とは頭の上を言い、それに頭を下げ・拝んで食べることを『頂く』と言います。佛教徒の習慣は、自然の恵み＝自然界の法則＝他力により、毎日・『生き』て『生きている』ことへの『報恩感謝の気持』を表わしたものです。

1『食べ物様には仏が御座る。拝んで食べなされや』と、明治生れの人々が言つた意味は、『米は八十八』と書き・モニ種から白米を得るまでに水やり・草取り・虫除けなど、八十八の手間が掛かるが、雨水・日光・高溫度など、自然の恵み（神仏）の『お陰（何も見えない）』が無いと米が取れないから、『豊作を神に感謝し・来年の豊作も願う秋祭り』が行われるのである。【如來＝臺灣の世界から来て衆生を救う人（仏）】

2親鸞聖人は、真宗（門徒）の本尊は『尽十方無碍光如來＝何物にも遮られない光を（全ての方向に）放たれる仏様』と言わされました。空氣中の酸素は、緑色の植物が作り出し・常に私を包み込むので、『無碍光』とは酸素』とも言えます。私たち達は、「自然の恵み＝自然界の法則」により毎日・『生き』て『生きている』のです。

3佛教とは、「自分の命の中に（生かされている）喜びを見つける教え」です。人たいの五臓六腑（心・肝・肺・脾・腎臓、胃・腸など）は、『不（可）思議な力＝他力の働き』で動くから、体内に「姿を変えた仏様＝如來』が居られ、その御陰で、私は、一生懸命・頑張らなくても、「生かされて生きて行ける」のです。

4オギヤーと生れた赤ん坊は、空腹時などに泣くだけで『自然の法則』に任せ・文句を言いません。が大人になると、自然の恵みのハズの雨に「嫌な雨や・今日は悪い日だ』などと、腹を立て・ストレスを溜めて・病気になつたりします。

5『念佛』とは、例えれば生・老・病・死（四苦）は、自然界の法則（真理・眞実）だから、逃げずに受け入れるしかないと決心することです。顔色・肌艶など、体から出る信号を読み・ストレスを溜めて体内の臓器（化仏）を傷つけないよう・『人生はなるようにならぬ。全て仏様にお任せし念佛申して行く』ことが大切です。